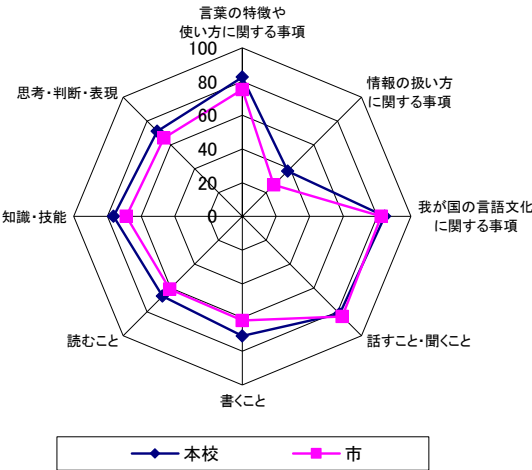


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.6	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	38.0	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	84.5	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	81.7	83.9	84.2
	書くこと	70.9	61.7	64.5
	読むこと	66.9	60.9	61.0
観点別	知識・技能	76.4	68.8	70.3
	思考・判断・表現	71.5	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

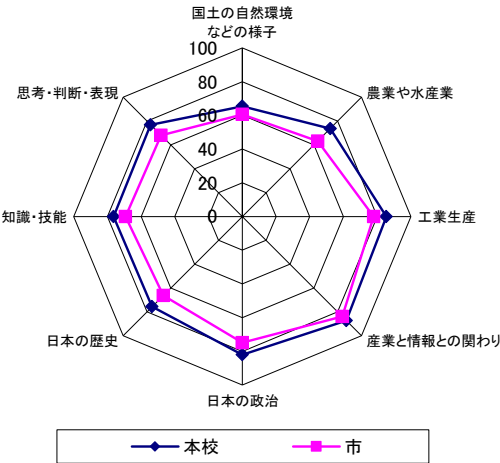
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	本校の平均正答率は82.6%で、市の平均を7.3ポイント上回っている。 ○文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使うことや、文と文の接続の関係の理解については10ポイント近く上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学校での学習に加え、漢字ドリルや小テストを活用するなど、繰り返し学習の充実を図る。 ・既習漢字の復習を積極的に行うとともに、接続語などの文法学習や敬語等についても引き続き指導していく。
情報の扱い方 に関する事項	本校の平均正答率は38.0%で、市の平均を11.5ポイント上回っている。 ●市の平均を大きく上回っているものの、正答率は低く、説明文において情報と情報との関係について理解し情報を整理して記述することに課題が見られる。	・資料を読み、資料の中から適切に情報を処理する練習を普段の授業でも取り入れる。 ・聞き取った内容から必要な情報を集めることができるよう、類似する問題に取り組むようにする。
我が国の言語文化 に関する事項	本校の平均正答率は84.5%で、市の平均を2.1ポイント上回っている。	・新出漢字の学習の際は、漢字の由来等についても触れる。 ・授業やその他の活動において、同じ意味を持つ和語、漢語、外来語について、考える機会を設定し、様々な言語文化に興味をもてるようにする。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は81.7%で、市の平均を2.2ポイント下回っている。 ●インタビューの内容を聞き取る設問では、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることが、市の平均を4.3ポイント下回った。	・話すことの構成を考える際に、話す目的に沿った内容や話し方を意識する指導を行う。 ・朝の会などの時間でスピーチを取り入れ、相手に伝わりやすい話し方の指導を行うようにする。 ・インタビューをする際には、自分が聞こうとする意図に応じた質問ができるように、話の内容を考える指導をする。
書くこと	本校の平均正答率は70.9%で、市の平均を9.2ポイント上回っている。 ○目的に応じて文章を簡単にまとめたり、反論やそれに対する意見を、字数制限や段落構成などの条件に合わせて書いたりすることがよくできている。	・文章の構成を工夫し、自分の考えが読み手に正しく伝わる文章を、条件に合わせて書く力をさらに育てていけるよう、作文指導や討論活動の中で指導していく。
読むこと	本校の平均正答率は66.9%で、市の平均を6.0ポイント上回っている。 ○物語では、描写を基に登場人物の様子を読み取ったり、説明文では、叙述を基に文章の内容を捉えたりすることがよくできている。	・いろいろな種類の本を読むことを通して、様々な表現方法に触れ、登場人物の心情をとらえたり、それをまとめたりする機会を多く設ける。 ・授業の中で、自分の考えをしっかりともち自分の考えと比べながら友達のを聞き学び合いの場を多く設定し、自分主体の学びができるよう指導していく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	65.4	60.5	65.8
	農業や水産業	73.7	63.3	66.0
	工業生産	85.4	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	87.3	83.8	76.6
	日本の政治	82.0	74.9	74.1
	日本の歴史	75.7	66.3	68.3
観点別	知識・技能	76.4	69.3	71.4
	思考・判断・表現	76.9	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

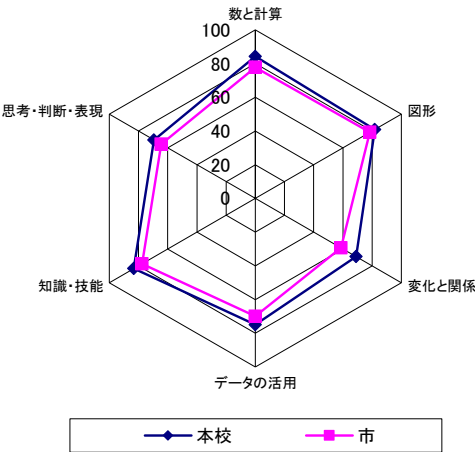
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	本校の平均正答率は65.4%で、市の平均を4.9ポイント上回っている。 ○太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題の平均正答率は、市の平均を5.2ポイント上回った。 ●「公害」という言葉を解答として記述する問題の平均正答率は、市の平均を9.1ポイント上回ったものの、低い正答率であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の周りの国々の位置と特色について、地図帳や資料を用いて確認したり調べたりすることで、位置と特色を関連付けて理解できるように、今後も指導を重ねていく。 ・資料を活用する力を育てるため、今後も教科書の表やグラフから読み取れることを考えさせる。 ・新出の地名や語句については、学習プリントやAIDリルなどを用いて、繰り返し学習することで、定着を図る。
農業や水産業	本校の平均正答率は73.7%で、市の平均を10.4ポイント上回っている。 ○輸入など、海外との関わりにおける課題についての考えを問う問題では、市の平均を17.3ポイント上回った。 ●日本の食料自給率についての理解を問う問題の平均正答率は、市の平均を6ポイント上回ったものの、低い正答率であった。	・農業で働く人々がかかえる問題について、デジタル教材や資料集を活用して把握し、話し合いを通して解決策を考えるような、問題解決型の授業を引き続き行っていく。 ・日本の農業や水産業に関するニュースを積極的に取り上げ、身近に考える機会を設けていく。
工業生産	本校の平均正答率は85.4%で、市の平均を7.5ポイント上回っている。 ○自動車の部品を再利用する目的についての理解を問う問題では、市の平均を7.5ポイント上回り、平均正答率は94.4%となった。 ○日本の輸出品・輸入品についての理解を問う問題では、市の平均を13.9ポイント上回り、平均正答率は70.4%となった。	・円グラフなどの資料を読み取って分かることをノートにまとめたり、グループで話し合ったりするなど資料を活用する力を育てていく。 ・ガソリン、原油価格についてのニュースを取り上げることで、様々な資源の輸入相手国について知る機会を増やしていく。
産業と情報との関わり	本校の平均正答率は87.3%で、市の平均を3.5ポイント上回っている。 ○産業における情報活用の現状について問う問題では、市の平均を6.9%上回った。 ○情報の発信と受信の注意点についての考えを問う問題は、正答率が93.0%と高かった。	・情報産業や情報化社会の領域においては、自分の身の回りの問題であるという認識をもたせながら、正確な情報を受け取り発信する力を定着させるとともに、自ら判断できるように情報モラルについても指導していく。 ・既習領域においても、資料を適切に読み取り設問に合う回答に達するよう、繰り返し指導していく。
日本の政治	本校の平均正答率は82.0%で、市の平均を7.1ポイント上回っている。 ○基本的人権の尊重の基本的な考え方について理解する問題では、市の平均を11.7ポイント上回り、平均正答率は93%となった。 ●議会政治について資料をもとに考え、考えを記述する問題は、市の平均を11.8ポイント上回ったものの、64.8%にとどまった。	・国会や裁判所に関するニュース、時事の話題を取り上げることで、実感をもって学ぶことができるようにしていく。 ・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設け、知識の定着を図るようにしていく。
日本の歴史	本校の平均正答率は75.7%で、市の平均を9.4ポイント上回っている。 ○元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断する問題は、市の平均を17.1ポイント上回り、60.6%となった。 ●天皇中心の政治の様子や日本風の文化が生まれたところの様子についての問題では、平均正答率は市の平均を1.7ポイント下回り、66.2%となった。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、事象をしっかり捉え、その時代の様子や繋がり等が把握できるよう、指導を重ねていく。 ・出来事が起こった年だけでなく、その理由や背景を考えることで、思考力・判断力・表現力を育てるようにしていく。 ・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設けて知識の構築を図るようにしていく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	84.3	77.7	78.6
	図形	81.8	78.4	74.4
	変化と関係	69.0	58.7	53.0
	データの活用	74.9	69.9	57.2
観点別	知識・技能	83.3	77.5	74.0
	思考・判断・表現	69.4	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

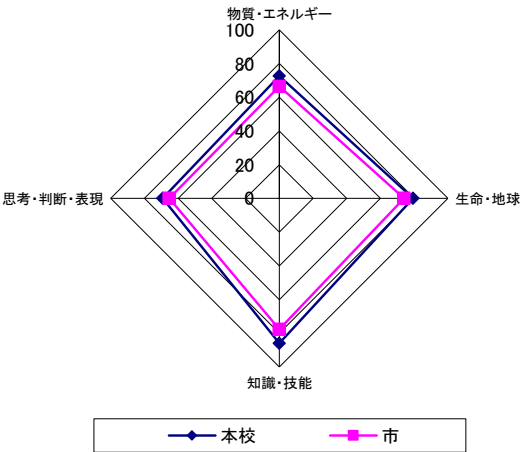
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は84.3%で、市の平均を6.6ポイント上回っている。 ○本領域のすべての設問において、市の平均を上回っており、小数のわり算の設問以外4ポイント以上高い。 ●分数の除法の文章問題で、問題文にあった式を選択する設問では、正答率が69.0%と他の設問と比べて低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・整数、小数、分数における四則計算の確実な習熟を図るために、AIドリルや選択式のプリント学習等、個に応じた練習に取り組み、主体的な学習態度の醸成を図る。 ・文章問題の解決に当たっては、場面における数量関係を図や数直線に表したり、式に表したりすることを通して課題を確実に把握できるようにする。
図形	本校の平均正答率は81.8%で、市の平均を3.4ポイント上回っている。 ○ひし形の面積を求める設問や、三角柱の展開図から重なる頂点を選択する設問は市の平均より5ポイント以上高い。 ●三角形の外角を求める設問では、76.1%と市の平均を上回っているものの本領域の他の設問と比べて低い。	・合同な三角形を作図する問題では、角や辺の長さのどの要素を使えばよい作業的活動の中で捉え、実際に作図することで習熟を図る。 ・三角形の内角の角度を測ったり切り取って並べたりする作業の中で内角の和や外角について理解を深めていく。
変化と関係	本校の平均正答率は69.0%で、市の平均を10.3ポイント上回っている。 ○本領域のすべての設問において市の平均を9ポイント以上上回っており、速さの単位の関係を選択する設問では11.9ポイント高い。 ●基準量と比較量から割合を求める設問では、正答率が64.8%と本領域において低い。	・「割合」の問題については、基準量、比較量、割合について数直線に表す活動を通して3項目の関係を確実に捉えられるようにするとともに、典型的な文章問題の解決を通して見方考え方の醸成を図る。 ・「速さ」における秒速・分速・時速の問題については、数直線に表現することを通して比例関係にあることを理解することで解決できるようにする。□
データの活用	本校の平均正答率は74.9%で、市の平均を5ポイント上回っている。 ○本領域のすべての設問において市の平均を上回っており、ドットプロットから最頻値や中央値を読み取る設問では市の平均より8ポイント高い。 ●柱状グラフを読み取り説明をする問題では、市の平均を上回っているものの、本領域の他の設問と比べ正答率が低い。	・データをもとにした考察の仕方では、ドットプロットや柱状グラフ等の示す内容や特徴について改めて理解を促し、平均値・中央値・最頻値といった代表値との関係について考える場をしっかりとるようにする。□

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.6	66.5	66.3
	生命・地球	79.3	74.0	72.6
観点別	知識・技能	85.9	77.6	78.2
	思考・判断・表現	69.2	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	本校の平均正答率は72.6%で、市の平均を6.1ポイント上回っている。 ○知識・技能の問題の平均正答率は85.9%で、市の平均を8.3ポイント、思考・判断・表現の問題の平均正答率は69.2%で市の平均を3.9ポイント上回っており、観点別にみても定着が図られているといえる。 ○特に「ふりこのきまり」や「物のとけ方」に関する問題の平均正答率は市の平均を上回っている。 ●「物の燃え方」の実験の結果について検討し実験方法を改善する問題では、平均正答率は66.2%と市の平均を4.7ポイント下回った。課題解決の方法を発想する力に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の目的に応じて一人一人が器具や機器などを正しく使いながら調べられるよう環境を整えたり、実験の過程や得られた結果を適切に記録できるようノート等の指導もさらに行ったりしていく。 ・身の回りの事象と関連付けて問題を見出し、予想や仮説をもとに解決の方法を発想できるよう、自分に関わることを解決していく意識をもてるような授業の導入を行っていく。 ・実験の結果を多面的に見取る力や、より妥当な考えを作り出そうとする力を育てるため、話し合う時間の確保を十分にとることに努める。
生命・地球	本校の平均正答率は79.3%で、市の平均を、5.3ポイント上回っている。 ○知識に関する基礎的な問題は正答率が高く、定着が図られているといえる。 ○「動物の体のつくりとはたらき」に関する問題の平均正答率が特に高く、市の平均を10ポイント以上上回っている。 ●台風の恵みによってダムに水をためることができることを説明する問題での平均正答率は76.1%、何を月や太陽に見立てているかを問う問題での平均正答率は91.5%と、市の平均をそれぞれ2.8ポイント、2.4ポイント下回った。学んだことを生活に活かす力や現象のモデル化に課題が見られた。	・手に取って調べられない事象や現象について、より分かりやすく、具体的な資料等を工夫する。また、現象のモデル化を児童自身が工夫できるようよりよい働きかけを研究、工夫していく。 ・学んだことを自分や自分の周りのことに結び付けられるよう助言したり、考えが深まる働きかけを行ったりしていく。学習したことと生活を結び付ける指導助言をしていく。

宇都宮市立峰小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学んだことを工夫してまとめたり、自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成	様々な場面で書く指導の充実を図っている。学年の実態に応じて、書くテーマや内容項目、字数など条件に合わせた作文指導を行っている。	国語の書くことの領域における平均正答率が市の平均を9.2ポイント上回っている。また、社会の議員政治について資料をもとに記述する問題の平均正答率は市の平均を11.8ポイント上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めに「家庭学習の手引き」を作成し、その中で曜日ごとの学習時間の予定を立てるなどして、計画的に学習に取り組めるように支援している。また、家庭学習がんばり週間を設け、継続的な家庭学習への取り組みを促している。	3～6年の「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の設問の肯定割合はすべての学年で、市の割合を上回ったが、「授業で習ったことをその日のうちに復習している。」の設問の肯定割合は、市との比較でも学年差はあるが、全体的に低い結果となった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国・県・市の調査ともに国語の「読むこと」の領域で、それぞれの平均と比べ高くなっている。一方、「書くこと」の領域においては、国・市の調査では、それぞれの平均を上回ったが、県の調査においては、県・市ともに下回った。市の児童質問紙「授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」の肯定割合は3、5年は市の平均を上回ったが、4、6年は下回った。自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成に取り組んできたが、成果として表れるよう、読んで理解する力を生かして、引き続きテーマや文字数などの条件に合わせた作文指導に取り組むとともに、自分の考えを整理してまとめられるような指導を引き続き行っていく。

県の「話し合いに進んで参加している。」「話し合い活動をよく行っている。」「発言しやすい雰囲気である。」「考えを発表する機会を与えられている。」の肯定割合は、ほぼ県の平均を上回り、国・県の調査の「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。」の肯定割合の学年差はあるものの上回った学年が多かった。話し合い活動の場を多く設け、様々な場面で自分の考えを発表できるように支援してきた結果であると言える。引き続き、話し合いの場の設定の工夫を継続するとともに、考えを深めたり広げたりできるような指導の充実を図っていく。

家庭学習においては、計画を立てて学習に取り組む習慣はできているので、学習内容の精選をし、復習をすることで更に学習の習熟が図れるような指導をしていく。